

第37回長崎大学における感染症研究拠点整備に関する
地域連絡協議会議事要旨

- 1 日時 令和3年6月2日(水) 10:00~15:00
- 2 場所 長崎大学グローバルヘルス総合研究棟中会議室(1階)、感染症共同研究拠点実験棟
- 3 出席者数 20名 調(議長)、山下(副議長)、石田、梶村、久米、末吉、道津、内藤、神田、塚原、寺井、原、藤原、加藤、宮崎、吉田、安田、南保、深尾、中嶋の各委員
- 4 欠席者 8名 田中、泉川、福崎、森崎、伊藤、山口、信濃、森田の各委員
- 5 オブザーバー
なし
- 6 事務局(長崎大学)
佐々木敬一(感染症共同研究拠点総務部門担当課長)、岡野公嘉(施設部長)、中村拓郎(施設部施設整備課長)、尾崎光芳(施設部施設管理課長)

7 議事

議事に先立ち、事務局から、本日の協議会については、これまで協議会で概要図を用いて説明してきたBSL-4施設について、実際に施設を見ていただくものである旨の説明があった。また、BSL-4施設については高いセキュリティを確保する必要があることから、職員の指示に従い、写真やビデオ撮影、録音をしないこと、セキュリティ確保に関わる情報等については第三者に提供したり、公表したりしないことなどについて依頼があった。

(1) 感染症共同研究拠点実験棟視察の事前説明

中嶋委員から、視察順路、各階の概要、視察経路、見ていただくポイント等について、セキュリティ上の観点から、資料は配付せず説明があった。

引き続き、事務局から、視察にあたっての注意事項等の説明があった後、実験棟に移動した。

(2) 感染症共同研究拠点実験棟視察

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、少人数の3グループに分けて実験棟の全階の視察を行った。

(3) 質疑応答

視察終了後、会議室に戻り質疑応答を行った。質疑応答や感想の大略は次のとおり。

(山下副議長) HEPAフィルタの箱があんなに大きいとは思っていなかったのでびっくりした。

(事務局(施設部)) フィルタ自体は縦横60cmぐらい。

(山下副議長) 地震があったときにずれる心配はないのか。

(中嶋委員) 免震構造等になっているので大丈夫。

(道津委員) 今まで説明を聞いたり、感染研を見学したりした経験から自分なりに問題点などを色々と考えていたが、今回実物を見ながら使い方の説明などを聞いてストーンと落ちるところがあり、すごく良かった。

(山下副議長) 陰圧の部屋の中で動物が変な症状を起こすことはないのか。

(中嶋委員) アイソレーターの中は若干陰圧であるが強い陰圧ではなく通常の状況になる。

(原委員) 狭いところにずっといたら精神的にどうにかなるのではないかと。建物内にリラックスできる場所はあるのか。

(中嶋委員) 実験棟には玄関ホールのところのリフレッシュルームを設ける。

(寺井委員) 素晴らしい建物で事故は起きないのではないかと。以前、動物の逸走を防止するためネズミ返しを設置するとのことであったが、取り付けの必要がなくなったのか。

(事務局(施設部)) 本日は安全に視察していただくために取り付けていなかったが、実際にはマグネット式のネズミ返しの板を設置する。

(安田委員) 厚いドアが相当数あるのでサルなどが逃げ出すことはないことを理解いただけたのではないかと。

(中嶋委員) ハード以外にも、例えば動物を隠し持って実験室外に出ることがないように、作業は必ず二人で行い、カメラで監視するなど色々な策を講じる。

(安田委員) 陽圧防護服(スーツ)にはポケットも付いていない。

(寺井委員) 建物に関する事故が起きるとは考えられず、針刺しやスーツ破れなどの事故の方が確率的に高いと思う。スーツを何かにひっかけて破くことがないように実験器具等の配置には頭を使うのではないかと。

(中嶋委員) 海外の施設では、感染事故はないがスーツの破損や針刺しなどの事故は起きているので、機械等はエッジがないものを設置したり、少し厚めのスーツを選択したりしている。

(藤原委員) 非常時に実験室の警告灯の赤ランプが点灯したら、サイレン等が鳴って施設外にも知らせるようになっているのか。

(中嶋委員) 赤ランプが点灯したら直ぐに地域にサイレン等で知らせるようにはなっていない。緊急事態が発生した場合の地域への伝達については先日の協議会で説明したとおり、サイレンではない方法でお知らせした方がよいのではないかと考えている。

(藤原委員) スプリンクラーも設置してあるのか。

(中嶋委員) BSL-4 実験室ではスプリンクラーは使わない。BSL-4 実験室ではハロンガス、電気室では窒素ガス消火を行う。

(藤原委員) 施設内外に監視カメラが設置してあり、不審な人物がいるとモニターで確認できるようになっているのか。

(中嶋委員) 詳しいことは説明できないが、フェンスをよじ登ったり何か不審なことがあったりした場合にはきちんと対応できるようになっている。

(塚原委員) HEPA フィルタのケースと配管に保温材が巻いてあったのは何故か。

(事務局(施設部)) 結露防止のためである。

(塚原委員) 避難経路等を書いた案内図が無かったが無くてよいのか。迷路みたいでどこにいるのか分からなかった。

(中嶋委員) 未だ建物は完成しておらず標示板等の設置については今後検討する。なお、建物の構造を熟知しトレーニングを積んだ者でないと施設の中には入れないので、どこまでのものが必要かは今後詰めていきたい。

(塚原委員) 外国製の洗浄ドラフト等があったが、メンテナンスに直ぐに来てくれる国内の業者はあるのか。

- (中嶋委員) 国内に支店があり、そこと連絡をとることになる。
- (安田委員) 海外から部品を取り寄せることがあるかもしれないが、通常のメンテナンスは全く問題ない。
- (塚原委員) 通路に緊急シャワーみたいなものがあったが、せきも見当たらず傾斜もなかった。それを使用した場合、その後水はどうなるのか。
- (中嶋委員) 実験室の横には非常用にそういうものを設置する基準になっており、後の始末は水拭きなどをすれば良い。
- (塚原委員) 1～2年に1回使うか使わないかという装置は、いざ使ってみたら錆びついて出てこないということはよくある。市水か。
- (事務局(施設)) 飲めるまでに浄化した井水で、飲んだり手を洗ったり普通に生活用に使用しているものである。
- (中嶋委員) 井水と市水を使い分ける形で設計されている。
- (塚原委員) 蓄電池の種類はリチウム電池か。
- (事務局(施設部)) 鉛蓄電池である。
- (塚原委員) オートクレーブに入れるパレットがあったが、それに入るぐらいのサイズの動物を想定しているのか。もっと大きなものなのか。
- (中嶋委員) 実験に供した動物の遺体などをパレットに入れそれを何段か積む。一つ一つはあの大きさに収まる形で、トータルではそれが5段ぐらい入る形になる。
- (宮崎委員) これまで地域住民の理解を得ることと安全性の確保という大きな柱で対応してきた。安全性の観点でいえば、すごく安心感が持てる設備が出来ていると感じた。ハード面での安全性は確保されているので、引き続き、ソフト面での安全管理について、あらゆる観点で検討をお願いしたい。
- 一つ一つの部屋にセキュリティがあるようにイメージしていたが、そういう部屋もあれば、そうでない部屋もあった。そもそも施設内に入れる者は限られていると思うが、一つ一つの部屋の入退室管理はあれで良いのか。また、何年後か先にケージなどの備品を入れ替えるときのセキュリティ対策はどうするのか。
- (中嶋委員) セキュリティの詳細については話すことができないが、何段階かの工夫をしてある。将来、大きなケージなどを交換するときは、普段は締め切っている開口部を開けてクレーンを使って搬入したりする。そのときは業者とセキュリティに関する契約を結ぶなどの対応を行うことになる。
- (加藤委員) ここ何回かの協議会で説明があったが、実物を見て、安全安心に配慮したセキュリティ対策がされていることがはっきり分かった。協議会でもマニュアルやチェックの話題が出ていたが、あとは人がやることなので、エラーが出る可能性がある。施設に入る者は十分な訓練をきちんと受けたうえで入ると思うが、二重三重にお願いしたい。あんなにごついスーツを着て実際に実験するときの作業はどうなのか。
- (安田委員) かなり作業はやりにくい。慣れで克服できることもあるし、普通の実験室でやる手技ではない別の手技で実験したりする。

(4) その他

事務局から、次回は7月19日の開催を予定しており、改めて開催案内を送付する旨の説明があった。

— 以 上 —